



認知症になっても安心

誰にでも起こりうる病気「認知症」。2025年には「65歳以上の」
ています。市では認知症に関する相談や支援を行い、認知症に対
とだと思わず、まずは「認知症」という病気を知ることから始めて
今号では認知症と向き合いながら暮らしているご夫婦取材し、

認知症と診断された男性 (Aさん)

Aさんは認知症で言葉が発しにくいいため、週に1回デイサービス(通所介護)で言葉のリハビリをしています。家族だけでなく他の利用者と接することができるため、楽しく通っているそうです。また、Aさんの妻には、高齢者なんでも相談室の職員が話を聞いたり、オレンジカフェ(7面参照)に誘ったりと、気持ちをリフレッシュできるようサポートしています。



Aさんの**変化に気付いたきっかけ**は何でしたか？

夫の親戚で認知症の方がいたので、認知症について何となく知っていました。なので、日常生活の中で、**数字が読めなくなったり、漢字が書けなくなったり、時間を間違えることが増えた**など、普段と違う変化にすぐに気が付くことができました。



変化に気付いた後、**誰に相談しましたか？**

かかりつけの医師に相談しました。そこで専門医を紹介され、受診したところ、「アルツハイマー型認知症」と診断されました。



診断された時はどういう気持ちでしたか？

自分でもおかしいと思っていたので、ショックはなかったです。

仕方ないという気持ちでした。一方で、**命に関わる病気ではなく良かった**と前向きに考えることもできました。



現在の生活はいかがですか？

調子は日によって違います。天気が悪いと調子も悪くなってしまいます。平日は、妻と一緒に買い物や散歩をしています。休日の楽しみは、孫が遊びに来ることです。



ご家族として、これからどのように過ごしたいですか？

できるだけ今の生活を続けたいです。デイケアに行っても周囲とのコミュニケーションができるか心配はありますが、**人と関われることは良いこと**だと思っています。



このようなことができるといいなということはあるですか？

身内の他に**同年代の話し相手がいると良い**と思います。

同じ境遇の方と話がしたいです。



1つでも当てはまる場合はご相談ください
認知症チェックシート

- 物をなくすことが多くなり、いつも探し物をしている
- 財布や通帳など大事なものをなくすことがある
- 曜日や日付を何度も確認しないと忘れてしまう
- 料理の味が変わったと言われた
- 薬の飲み忘れや、飲んだかどうか分からなくなることがある
- リモコンや洗濯機など電化製品の操作がうまくできなくなった
- 鍋を焦がしたり、コンロの火を消し忘れることがある

認知症ケアパス「認知症になっても安心して暮らせるまち・あびこ」

認知症の予防から介護・ケアまで役立つ情報を掲載したリーフレットです。ぜひご活用ください。

配布場所 高齢者支援課、各高齢者なんでも相談室※市ホームページ(QRコード参照)からダウンロード可

問 高齢者支援課 ☎7185-1112

